

令和3年度 学校関係者評価報告書

(大原スポーツ公務員専門学校高崎校)

1. 実施日時

令和3年8月4日(水) 15時00分～16時00分

2. 場 所

大原学園高崎校 10階 10A教室

3. 学校関係者評価委員

金光 寛之 様 (高崎経済大学 教授)

鈴木 誠二 様 (富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社群馬支社 支社長)

柳澤 景子 様 (社会福祉法人岳雄会 幼保連携型認定こども園エデュカーレ城之内 園長)

中嶋 文雄 様 (近隣住民 株式会社群馬総合ファシリティーズ)

新井 良平 様 (本校卒業生 富士ゼロックス群馬株式会社)

大谷 優作 様 (本校卒業生 株式会社ファクトリージャパングループ)

鈴木 瑠波 様 (本校卒業生 群馬県学校事務 (二葉特別支援学校))

廣岡 実季 様 (本校卒業生 社会福祉法人金鈴会 矢中保育園)

(事務局)

古堀 照久 (大原学園高崎校 校長)

外山 和哉 (大原学園高崎校 教務課長)

松山 賢志 (大原学園高崎校 教務課長)

棗 正志 (大原学園高崎校 教務課長)

小林 美千恵 (大原学園高崎校 教務課)

4. 会 議 録

(1) 学校長挨拶

(2) 令和2年度各コース実績・カリキュラムに関する報告、自己点検・評価報告

コロナ感染症の影響はあったものの、大原学園全国専門課程の就職内定率や公務員採用率、資格取得率など、例年同様に良好な成果を収められている。また、大原学園高崎校においても、大原学園全体の成績に見劣りしない成果が残せており、各コースに応じた資格取得、試験合格なども、カリキュラムの精査、専門的技能を習得するための実践的教育のブラッシュアップを図り、安定した資格取得率・合格率を維持できている。各コースとも多少の差異は

あるものの、欠席・遅刻・早退を抑止するための取り組みもなされている。

令和2年度における大原学園高崎校の自己点検・評価について、全般的に良好な結果であり、概ね前年度と同等以上の成績、評価を残すことができている。学校運営は、引き続き円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針を明確に定め、教育理念を達成するための事業計画の策定、目標達成プログラムの導入、各研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。予算計画・執行は、規定に従って適切に行えており、財務状況も安定している。

なお、令和3年度も、引き続き高い実績を残すために、教職員の資質向上は非常に重要であり、また、コロナ感染症対策を施したうえで適切な学校運営を行って行く。

(3) 学校関係者評価委員会からの提言

➤ 『教育の質向上や環境整備に伴う学生満足度の向上』について

《関連する項目》

3-11 資格・免許の取得の指導体制、4-14 資格・免許の取得率、6-22 施設・設備等

《現状・達成指標》

- ・大原学園では、ギガスクール化構想として、次年度の入学生より一部コースを除き教材のデジタル化を進めている。学生が思い教材を持たなくて済むこと、板書時間の短縮など利点が多くある。ただ、単にテキストをデジタル化すればいいわけではなく、課題や検討事項も山積している。デジタル化に向けた取り組みでの懸念事項や委員の提言を賜りたい。

《学校関係者評価委員会からの提言》

- ・紙テキストからデジタルテキストに変更になったときに、例えばパソコンなどを開きたいときに開けない場合などはストレスになる。やはりネット環境などの環境整備や強化は必須だと思う。(新井委員)
- ・公務員コースでは相当なテキスト冊数があり、それがタブレット一つで済むのであれば、学生は相当楽になると思う。また、電車の中でテキストを広げるのは抵抗があったとしても、タブレットであれば気兼ねなく勉強できるのが良いと思う。また、紙の教材だと一度書き込んでしまうと、その後消したとしても跡が残ったりして反復しにくいのが、電子化されることで繰り返し問題消化できるメリットはあると思う。(鈴木瑠委員)
- ・弊社でも今年から電子化が進み、顧客情報などが全て紙データからデジタルデータ化された。使う側(社員)がまだまだ不慣れであるという弊害が現状でも多くある。学生の使い方もあり、先生方の負担や導入にあたり使い方を浸透させるための研修などに時間がかかるのではないか。(大谷委員)
- ・弊社でも製品マニュアルは以前までは紙だったが、それが電子マニュアル化されスピード化できているところがある。現代では随所にデジタル化が進んでいて、学生さんは慣れて

いる状況があるのでスムーズに受け入れられるのではないかと。寧ろ難しいのは先生方で、使用方法のマニュアル化であるとか、システムやネット環境に障害が起こった時の授業のリカバリの方法だとかが大変になると思う。また、学科によっては著作権の問題などで、デジタル化できる書籍とそうでないものがあり、コンテンツの制約が発生すると思う。

反面、電子化することで、例えば演習問題などをデータベース化しやすい、データ分析が容易になるなどのメリットも多くあると思う。(鈴木誠委員)

▶ 『保護者の満足度や安心度の向上』について

◀ 関連する項目 ▶

5-20 保護者との連携体制を構築しているか

◀ 現状・達成指標 ▶

- ・今まで保護者との確認、連携は電話連絡が主だったが、大原ポータルを使用して学生のみならず保護者との連携を行なっている。特に、最近では保護者と学生との情報共有が少ないこともあり、保護者からの問い合わせが増えている。そのため、まだ一部コースに限定しているが、定期的に保護者会を実施している状況がある。今後、更にその連携を強化していくために必要なこと、保護者会のブラッシュアップしていくことはあるか。

◀ 学校関係者評価委員からの提言 ▶

- ・保護者目線では、学校から連絡があると、本人の学校の様子が聞けてうれしいと自分の保護者は言っていた。もし私の時も保護者会があれば、自分の保護者は参加していたと思う。このような取り組みは、非常に良いことだと思う。(鈴木瑠委員)
- ・自分が学生時代に、親とはよく話はしていたが、今は自分が保護者目線になったときに、もし自分の子供とギクシャクして聞くに聞けない状況があれば、そのような制度はうれしいと思う。(大谷委員)

▶ 『適切な防災に対する体制の整備、運用』について

◀ 関連する項目 ▶

6-24 防災・安全管理

◀ 現状・達成指標 ▶

- ・定期的に避難訓練を実施しており、備蓄品を準備しているところではあるが、色々な観点から今後の備えや教職員や学生の意識などでどのようなことが必要となるか。

◀ 学校関係者評価委員からの提言 ▶

- ・企業として地震、火災などのガイドラインがあるが、今回のパンデミックについて新たに追加した。企業と学校との違いはあるが、学校目線で考えると、学生の安全第一などのその点を考えることが重要である。(鈴木誠委員)
- ・勤務先が肢体不自由の生徒がいる特別支援学校だが、よくあるのが転倒などによる骨折、

持病の発作をおこして救急搬送するため病院に連絡しなければいけないことが日常よくある。そのための、例えば病院や救急・消防、保護者等に電話連絡をする担当者、生徒の安全をまず確保する担当者など役割を決めておき、職員用の訓練を年に3回ほどやっている。そのため実際にそのような事象が起きたときは、訓練よりも実際の時のの方がスムーズに進んでいることがある。生徒の生死にかかわることだが、避難訓練は生徒は手を抜くことが多分にあるため、マニュアルの整備なども大事だが、先生方の訓練を日ごろから徹底して行なうことが重要になる。(鈴木瑠委員)

- ・私が住んでいる地域はGメッセ群馬が避難場所になっているが、大原からは佐野中学校よりもGメッセの方がいい場合がある。また、あそこは備蓄品が相当数あるため、市などに確認をしてみるのもいいかもしれない。(中嶋委員)

➤ 『地域活動（地域貢献）を通じた社会性の向上』について

《関連する項目》

10-36 社会貢献・地域貢献、10-37 ボランティア活動

《現状・達成指標》

- ・コロナ禍の中、多くのボランティア活動等の学生活動が中止になっているが、そのような中でもできることを知恵と工夫を凝らして開催できるように努めていきたい。具体的にどのようなことが可能か、提言を賜りたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・各企業、各学校がボランティア活動としてゴミ拾いしていることがある。コロナ禍のため一概には言えないが、大原でも校舎周辺のゴミ拾いから始めてみて、今できることを新たな試みとしてスタートするのも良いかもしれない。(中嶋委員)

5. 学校関係者評価委員会総括

就職や資格取得・合格の実績や学生の様子より、教職員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。また、多くの卒業生が実社会で活躍していることは、地域への社会的責任を果たし、貢献しているという意味で非常に大きな役割を果たしている。学生生活においても様々な場面で学生と教職員がコミュニケーションを図り、学生の特性を把握したうえでの指導が行き届いており、素晴らしい教育成果に繋がっている。

コロナ禍において、教育業界でもオンライン化が加速している中、可能な限り対面授業を重視しており、重点課題の改善に向けた取り組みと社会情勢の変化に対応し、引き続き企業との連携に注力してもらいたい。

今後も委員一同、客観的な視点から様々な提言をして、大原学園高崎校が更に社会から信頼を得られるように助言していきたい。